

になる可能性がある。そして が落ちてしまうと。それはとても困ります。それは譲れませんというところです。ですから、その場合には大賞の次点を学術研究からどなたか出せるかどうか。 さんでない方、出せるかどうか。

- それではよろしゅうございます。
- どなたを出して。
- さんを大賞候補から外して。
- なるほど、で、どなたが入りますか。
- ほかに大賞候補はありません。なし。
- なしですか。ああそうなんですか。
- こちらからは。そうすると、さんが2番候補ということになる  
んですね。

- ああ、そういう枠をまたぐということは今までなかったの。
- ですから、さんを1位にして、芸術・文化の1位とそこ2人書いてあるさんとさん。その順番でやればいいんですね。
- 学術研究の議論として、大賞というのは、やはり学術が優れているということとともに、何か華があるというか、一般市民の方にもご了解がいただけるような、多分、さんの場合には翻訳が10冊あるとか、そういうわかりやすさというのがあった方がいいということだと、さん以外だと、大賞としてはちょっとカテゴリーが違ってしまふかなというような議論をいたしました。
- 今までそういう形で学術と芸術・文化の枠を超えてのやり取りについてなかったじゃないですか。

- そうですね。今回が初めて。
- そうですね。そういうこと、ないですよ。
- 同じ分野で3位、次点プラス3番目まで。
- 先ほどの議論にありましたように、  
ということにこだわりますと、もう学術の中で次点まで、3位まで選ばざるを得ないですけども、ただ今回は大賞候補にしかならないけれども、次の次点を選ぶにくいということになれば、もう分野をまたがって次の次点を選んでいただくという、今のお話の内容にしかならないのだろうと思いますので、それは別に  
でありませぬので、今回そのように審査委員会の中で決まれば、それでいいんだと